

日

本大学でこの4月から始まったプロジェクトに注目が集まっている。「N.研究プロジェクト」は、

日本大学が学内で募集、実施される学術研究戦略プロジェクトである。「健やか未来の創造」を統一

スローガンに、各学部が協働し、体系的に推進していくことに特徴がある。採択された研究にはその費用として年間1億2000万円が支給されるという。これを自主財源でまかなうところに、日本大学の強さと決意が示されている。

申請された16件の中から、平成21年度指定研究に選ばれたのが、理工学部の大月穰准教授を代表とする「ナノ物質を基盤とする光子技術の極限追求」だ。このプロジェクトでは、1ナノメートルの小さな分子から数百ナノメートルという比較的大きな高分子までの自己集合や電子ビーム微細加工などを駆使したナノ構造作製法を開発する。

「ナノサイズ技術を駆使した研究により、『情報』、『エネルギー』、『医療』の3分野で応用技術を開

学部間をまたぐ
大型プロジェクトがスタート。
成果を社会へ



発する計画です。「情報」分野では超高密度で超高速な記録法の開発、「エネルギー」分野では太陽光の有効利用の技術開発、「医療」分野ではがん遺伝子を光で検出する方法や新たな治療法の研究を進めます」（大月准教授）。

キーワードを聞くだけでも、さまざまな知識の連携が不可欠だと感じる。多くの大学では従来、これらの分野の研究は個々の学部で独自に行われていたが、社会のニーズに因應するためには限界がある。総合大学としての総力を挙げて学術研究に取り組めるのは日本大学ならではだ。

大月准教授の説明によれば、理工学部をはじめ、文理学部、医学部、生物資源科学部、薬学部、さらには量子科学研究所、大学院総合科学研究科などの30人の教員が

チームを組みプロジェクトの推進にあたるという。むしろ研究にあたっては、教員それぞれの国内外のネットワークが活用されるほか、学外の有識者による評価委員会も組織されている。

「プロジェクトを通じて、若手研究者や博士課程の学生などの育成も図りたいと考えています」と大月准教授が話す、そのチャンスも多いに違いない。

プロジェクトは5年間をメドとし、これらの研究成果は論文として発表されるだけでなく、日本大学産学官連携知財センター（NUBIC）を通じて知的財産として広く公開され、その活用を図る予定だ。受託研究や共同研究にも積極的に取り組んでいくというから楽しみだ。社会への貢献にも大いに期待が高まる。



理工学部物質応用化学科 大月穰 准教授



産学連携により開発された製品はNUBICを通じて「イノベーション・ジャパン」をはじめとする各種イベント等でも公開される

【お問い合わせ先】

日本大学 産学官連携知財センター (NUBIC)
〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 日本大学会館
tel.03-5275-8139
URL <http://www.nubic.jp/>